



「大雨」への備えを改めて確認

今後の台風の多い時期に備えて防災体制の再確認を

本年7月15日から17日にかけて、本県では、前線と低気圧による大雨により、甚大な被害がありました。

今回の大雨は、夜間に強い雨となり、児童生徒等が在籍する時間ではありませんでしたが、児童生徒等が在籍時には、気象情報や自治体の避難情報を踏まえ、児童生徒が下校途中に被害に遭うことがないように、適切な安全確保が必要となります。

仙台管区気象台では、今回の大雨に関して、「宮城県災害時気象資料」（値は速報値で、後日修正の可能性ある。）として、降水量や警報・注意報発表状況等を仙台管区気象台ホームページに掲載しています。

今後、台風の多い時期を迎えますので、改めて、防災体制の再確認にお役立てください。

仙台管区気象台

宮城県災害時気象資料

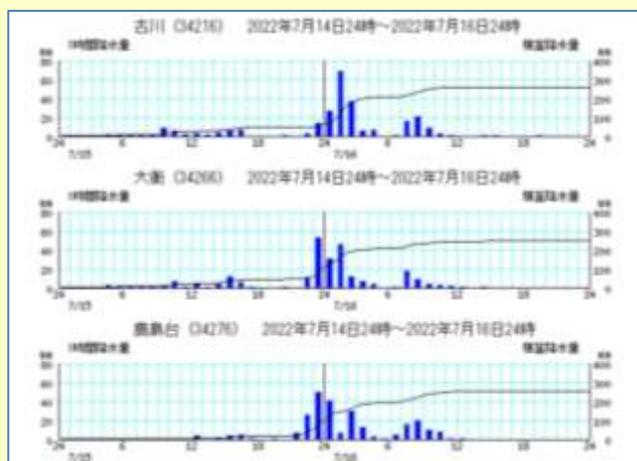
前線と低気圧による大雨

（令和4年7月15日～17日）

<https://www.data.jma.go.jp/sendai/data/saigai/siryou/20220722miyagi.pdf>



資料を一部抜粋→



大雨に関する防災体制の再確認に当たっては、以下の資料も参考に！！

- (1) 防災マニュアル見直しに関する説明会の映像配信より
講義2「気象庁が発表する防災気象情報について」（30分）仙台管区気象台
<https://youtu.be/PDsxWxvCXek>



※詳細は、令和4年5月10日付け保体号外「防災マニュアル見直しに関する説明会の映像配信」についての（通知）を参照ください。

- (2) みやぎ学校防災ポータルサイト「みやぼう」
大雨等に関する防災マニュアルの見直しのポイントや、実践事例などが集約されている。
<https://www.pref.miyagi.jp/site/gakkou-anzen-bousai/miyabou.html>



大雨に関する防災マニュアル見直し等に当たって

『学校防災アドバイザー』の活用が有効です。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hotai/bousaisoudan.html>

申込みはこちら⇒⇒

学校防災に関する専門家（大学等）が、マニュアル見直しや防災体制について、専門的知見からアドバイスをします。防災主任と管理職の少人数での打合せの機会や校内研修の講師も可能です。派遣に係る費用はかかりません。



児童生徒が、大雨への対応を「我が事」として考える取組が行われています！！
各学校における児童生徒自身の防災力を高める取組の参考としてください。

「マイ・タイムライン」を活用して自分自身の避難行動を考える【浦谷高等学校】

7月21日、全校生徒が浦谷高校では、「マイ・タイムライン」を活用して、大雨の被害から命を守るための避難行動計画を考えた。（「総合的な探究の時間」で行った流れの概要を紹介）

1 避難ゲームによるイントロダクション（個人）

「あなたの選択が、未来を変える 風水害 24 MOVIE」というインターネット上の避難ゲームを各個人で実施。（マイ・タイムラインを作成する意義の意識付けを目的とした）

2 基礎知識の確認（授業形式）

ワークシートを活用し、各クラス担任が授業形式で実施。

3 避難シミュレーション（グループワーク）

与えられた条件から、時系列でどのような避難行動をとるか、グループワークを実施。各個人でのマイ・タイムライン作成の前段階としてシミュレーションを行った。



4 マイ・タイムラインの作成

（1）正常性バイアスの解説（授業形式）

マイ・タイムライン作成前にスライドを用い正常性バイアスの解説を行った。

（2）マイ・タイムライン作成前の事前確認（個人）

生徒個人の居住地のハザードマップを持参させ、家が浸水想定区内か、土砂災害警戒区域内か、家族構成、避難先の確認を行わせた。

（3）マイ・タイムラインの作成（個人）

風水害や気象情報・避難情報の基礎事項を確認し、個人ごとに風水害・土砂災害発生時に「いつ」「だれが」「何を」するのかなど自分事として命を守る行動を考え、事前の避難行動計画を作成した。



地区の小中高合同の防災ワークショップで大雨への備えを学ぶ【角田高等学校】

8月18日、角田高校では、令和元年東日本台風で甚大な被害があった角田市・丸森町の小中高の代表児童生徒による防災ワークショップで、大雨への対応を学んだ。（以下、概要紹介）

講師には、仙台管区気象台職員を招き、グループごとに活動した。（角田高校、伊具高校の高校生が小中学生をリードした。）

1 気象庁防災ワークショップ「経験したことのない大雨 その時どうする？」

激しい雨の予報があり、夜間に最も危険度が高い場合の避難情報「緊急安全確保」が発令されたと想定し、その間の備えや行動をグループごと討議、シミュレーションした。

2 自分の地域に置き換えて考える

角田市・丸森町のハザードマップを確認し、それぞれの地域にどのような危険があるかをグループごとに確認した。

3 発表

ワークショップでの話し合い内容、自分たちの住む角田・丸森地区で、どのような避難行動がとれるのか、どう行動していくべきかの意見をグループごと参加者全員が発表した。

参加した生徒からは、前回の台風の経験から、地域で避難等の対応を話し合っておく必要性がある。地域のコミュニケーションが大事。浸水想定になっていなくても、堤防決壊などで浸水想定のある恐れがあるため、事前に話し合っておく必要があるという意見が発表された。

